

令和4年度第1回彦根市文化観光推進協議会
会議録

令和4年度第1回彦根市文化観光推進協議会

第1 開催日時 令和4年12月28日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで

第2 開催場所 彦根市役所本庁舎 5階 会議室 5-1・5-2

第3 出席者

出席委員

滋賀大学 産学公連携推進機構 特任教授	上田 雄三郎
滋賀県立大学 地域共生センター 講師	上田 洋平
近江ツーリズムボード	内記 真美 (代理出席)
ひこね文化デザインフォーラム 理事長	戸所 岩雄
彦根商工会議所 副会頭	上田 健一郎
彦根城運営管理センター 所長	宮川 敏明
彦根市産業部長	中村 武浩
彦根市都市建設部長	藤原 弘
彦根市歴史まちづくり部長	久保 達彦
彦根市教育委員会教育部長	広瀬 清隆

欠席委員

彦根観光協会 専務理事	矢田 全利
-------------	-------

◇事務局(市関係所属)

歴史まちづくり部副参事(文化財課長)	井伊 岳夫
彦根城博物館学芸史料課長	渡辺 恒一
彦根城博物館管理課長	堀部 圭一
産業部観光交流課長	成田 卓巳
産業部観光交流課課長補佐	山本 武
産業部観光交流課誘客推進係長	川口 大輔
産業部観光交流課主査	松野 祐樹

第4 議題

- 1 彦根市観光振興計画中間見直し(素案)について
- 2 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

第5 会議資料

- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 彦根市文化観光推進協議会設置要綱・委員名簿 |
| 資料2 | 彦根市観光振興計画見直しの概要 |
| 資料3 | 彦根市観光振興計画 中間見直し版(素案) |
| 資料4 | 観光振興計画前半の評価と後半に向けた数値目標(案) |
| 資料5 | 地域文化観光推進事業の進捗状況 |

会議録

1 彦根市観光振興計画 中間見直し（素案）について

◆資料2・3・4に基づき事務局から説明。

○久保委員

各目標値は令和7年度までの残り3年後を見越した数値なのか。

○事務局（松野）

仰るとおり、3年後を見越した数値となっている。

○久保委員

新規指標の中で「観光客満足度」があるが、これは令和7年度まで継続して調査をされるか。

○近江ツーリズムボード内記氏

継続して調査を実施する。

○上田洋平委員

持続可能で健やかな観光のあり方を示すというところで「21世紀型城下町」という形を示し、さらにはSDGsとの関連も生じているかと思われるが、今回の指標等でそのあたりの考え方や繋がりについて聞かせてほしい。また、SDGsとの紐づけに関連して、他市や外国との繋がりなどについても、あれば教えてほしい。

○事務局（松野）

他市や外国との連携に関しては特にはない。SDGsについては、観光振興計画と何か直接的に影響し合っている訳ではないが、観光振興を推し進めるにあたっても重要な観点だと考えており、今回の中間見直しで追記をしている。

○上田洋平委員

観光において「健康」という観点も重視されているということをお示しいただいているので、SDGsだけではなく、何かそういったことを彦根から示すことができれば良いのではないかと。

また、彦根城世界遺産登録に関連しても、「戦わなかった城」として、そういったところも組み合わせると、「健康」、「健やか」といったところと彦根城の価値とを結びつけることもできるのではと思う。

○上田雄三郎委員

近江ツーリズムボードさんでも顧客満足度を調査される中で、SDGs的な観点もあるのか。

○近江ツーリズムボード内記氏

直接的なものはないが、もともと彦根は交通渋滞が発生しがちで、オーバーツーリズムを防ぐという意味もあり、DMOとして地域の方も観光客の方も負担にならない形を目指しているので、路線バス利用を促す施策を実施している。

○上田洋平委員

交通渋滞を軽減することはCO2削減やゴミ削減、脱プラという観点においても非常に重要。そういった意味で江戸時代はリサイクルや資源循環が徹底されていたし、そういった文脈の中で色々な指標や目標を市民と共有する一つのきっかけになるのではないか。

○戸所委員

SDGsに関連して、今回の推進協議会の名前は「文化観光」ということで、文化を紡ぐ環境が整っているのか、また「文化」という言葉がいわゆる歴史・文化というニュアンスで、本来の彦根市民の生活文化であったり、伝統文化、文化観光を推進していくという意味での文化景観・文化環境をどう整えていくのか、各指標を実現するために文化環境をどう整えていくのかという視点が少し足りないのではないか。

○事務局（松野）

いただいたご意見を参考に、内容を検討させていただきます。

○上田雄三郎委員

戸所委員が仰る「文化」というのは、いわゆる暮らしやライフスタイルといったニュアンスか。

○戸所委員

彦根の文化観光という点で言えば、彦根市の都市像として、文化というのを皆さんイメージされる。そのイメージがどのようなものかという点で、市民のコンセンサスとして成り立たないことには、それを標榜できないのではないかと思う。その視点に立てば、文化を紡ぐための環境整備というものに、どう力を入れていくのか、市民の生活の中にどう文化を根ざして、その文化が市民生活を豊かにするためのツールとして、どう位置付けていくのかという視点を考える必要があるのではないか。

○上田委員

今回組織が再編されると聞いているが、この観光振興計画を推し進めるなかで、組織再編のメリットを教えてほしい。

○事務局（成田課長）

来年4月以降、観光が産業部から離れ、観光部門と文化財、文化振興部門とが一体になるので、戸所委員が仰ったような文化の振興に関することや、文化財の活用といった面からの観光振興という点においても一つの部で所管することになるので、意思決定やビジョン統一といった点で、市の施策は一体的に進むのではないかと考えている。

○久保委員

「仮想空間」や「メタバース」という視点がもう少しあってもよいのでは。

○事務局（成田課長）

まだ具体的にメタバース空間の活用について、どう観光に活かしていくのか、いわゆるデジタル部門をどのように観光に結び付けるのかという具体的なところが未だ出ていなかったため、こちらには反映できていない。

○上田洋平委員

障害者スポーツ大会が行われることもあり、誰一人取り残さずに、障害を持った方にも街を楽しんでいただけるということも重要かと思う。メタバースなど新しい技術を活用することで楽しんでいただけるような街にもなれば良いのではないかと思う。

○戸所委員

茶の湯条例が制定されるとのことで、彦根の文化観光施策を進める上でも大きな変化かと思う。単なる伝統文化に慣れ親しむということだけではなく、観光客や学習の場、商業の活性化にも繋げていこうという総合的な体系が考えられる動きと思われる。そういったものを、城下町ならではのコンテンツということの中に反映していくということはお考えか。

○事務局（松野）

茶の湯条例に関して、中間見直しで直接的な記載はしていないが、文化観光推進という視点を追加しており、仰るような視点も考慮しながら、各所と連携しながら観光推進を推し進めてまいりたい。

○戸所委員

施策3「城下町の風情を偲ばせる景観形成」ということで、この文面だけを見ているとハード面でのニュアンスが強いので、先ほど申した文化景観や、その中で営まれる文化活動など、そうしたものを含めた景観形成というニュアンスが出てくると、文化都市彦根としての意味合いが色づけられるのではと思うので、参考までにお伝えする。

2 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

◆資料5に基づき事務局から説明

○上田健一郎委員

事業1-①PRビデオについて、具体的な内容を教えてほしい。我々民間としてもPRにも活用できるのかなど、わかる範囲で教えてほしい。

○事務局（井伊課長）

世界遺産登録推進で作成しているものだが、細かいところを把握しておらず、この場ではお答えできない。

○上田健一郎委員

できれば様々な場面でPRに活用したいと考えているので、また情報をいただきたい。

○久保委員

パンフレットの補助金の件で、令和4年度は不採択となったが、令和5年度に再度申請すれば採択されることはあるのか。

○事務局（山本補佐）

令和4年度申請の前に協議をしたが、文化庁の考え方として、周知や啓発にかかる費用はもともと見ておらず、良いコンテンツを作れば周知をしなくても人はやってくるので、良いものを作ってください、というのが基本的な考え方であるとのことだった。そうした点で、本件は不採択となっており、来年度再度申請したとしても不採択になると思われる。

○久保委員

多言語情報提供強化事業というのは、紙媒体ではなく違う方法で実施せよというニュアンスなのか。

○事務局（山本補佐）

仰るとおりデジタルを中心というのの一つだが、そもそも周知にお金をかけるというのは文化庁の考え方としてはなかなか厳しいと思う。

○近江ツーリズムボード内記氏

事業3-③については我々とも協力していただきながら事業を進めているところだが、事業3-②で造成を予定されているツアーについて参考にさせていただきたい。学芸員による館内解説付き能・狂言鑑賞ツアーというものがあるが、こういった形で彦根市が主催をして、こういった運用をされる想定なのかを教えてください。

○事務局（堀部課長）

そうしたツアーを考えていたところだが、補助金の考え方として、こういったイベントについては自力執行での実施、補助金の対象にはならないという返事を受けている。もともと自主財源で実施しているところもあり、財源取り込みをできればという思いもあった。予算要求をしていくところであったが、コロナの影響や市の財政状況もあり、開催できていない状況。

○事務局（渡辺副館長）

もう一つの学芸員による館内解説という点については、能・狂言が実施できていないこともあり、こちらも実施できていないが、観光協会がプランニングをされ、ツアーなどと組み合わせる形で、その中に学芸員による案内を入れ込むという話は聞いている。

○近江ツーリズムボード内記氏

お金を払って参加される方のためだけに舞台を使えるという形なのか、一般の方も入ってくる中で一区画をそうした方向けに設ける形なのかも教えてください。

○事務局（堀部課長）

能・狂言の場合、一般の広く周知をしてお越しいただくお客様のなかに、ツアー等でお越しいただく方の人数・席数確保というものが現実的ではないかと考えている。

○上田洋平委員

事業1-⑥で、小中学生・高校生とあるが、大学生もお世話になっているので、そういったものも成果として挙げていただけるのではないかと。何かお困りのことで、大学で何か協力できることはないか。ここで聞きしておく、今後に向けて何かできることがあるかもしれない。

○久保委員

滋賀大学、県立大学には世界遺産登録などご協力をいただいております、問題がなければ、この部分に大学生に関する記載も追加いただくと良いのではないかと思います。

○上田洋平委員

本学には国際コミュニケーション学科もあり、パンフレット作成などお金がないにしても、モニターであるとか、様々ご協力できることはあると思うので、何かお困りのことがあれば仰ってほしい。

○事務局（渡辺副館長）

今仰られた国際コミュニケーション学科の関係で、多言語情報提供強化事業のなかで、彦根城博物館の概要や展示作品の英文を、ネイティブの方に作成いただくという形で実施している。日本語をそのまま翻訳するのではなく、観光庁などが外国人向けの英語をどう作るのかというガイドブックを作られ、文化庁もそれを採用しており、内容をネイティブの外国人の方に伝え、専門知識がある方にもう一度頭の中で構成していただいた上で書き下ろしてもらおうという形が推奨されている。文化庁の補助金では印刷製本費は基本的に認めていただけないので、彦根市の単費で実施しようとしている。文化庁からは英文に対する評価を求められ、その時にモニターをしていただける外国人の方を探すのに苦勞をしていたので、そうした点でもご協力をお願いできる可能性がある。

○上田洋平委員

モニターとして協力をした本人が自国に帰った時に、発信者になってくれる可能性もあり、せっかくの機会なので是非。

○上田健一郎委員

商品・グッズ開発事業について、今年度は検討中とのことだが、これまで絵葉書等の作成・販売されているとのこと、販売チャネルや売れ行きについて教えてほしい。

○事務局（堀部課長）

絵葉書などについては、原則館内販売としている。昨年度から自主商品として御城印を作成しており、こちらは館内だけでなく県外キャンペーンでも販売している。魅力的な商品の作成というのは行政職員には不得手な部分もあるので、民間の皆さまのお力添えもお願いしたいところではあるが、なにぶん行政ルールもあり、そうしたルールも整備する必要があると考えている。

○近江ツーリズムボード内記氏

茶の湯条例の施行にあわせて、どれくらいの方が条例の制定にあわせて走っているのか、各団体のプロジェクトを進めていってもらいたいかなど、彦根市としての想いを聞かせてほしい。観光においても重要なテーマだと思うところもあり、コンテンツ化していきたい思いがあるが、彦根市としての想いがあれば共有いただければ、それに則って協力できればと思う。

○事務局（成田課長）

条例のなかでは観光も視点に入っており、産業振興や伝統文化の醸成など様々な視点が入っており、民間の皆さまに対して市から様々要請があろうかと思う。役所は開かれた場所なので、茶の湯条例を契機にして貴団体で様々な展開を考えられるようであれば、ご提案いただいて、お話をお聞かせいただくこともいつでも可能。文化振興課が所管しており、4月以降は観光と同じ部になるので、いつでもお聞かせいただければと思う。

○上田洋平委員

茶の湯条例について、今パブリックコメントを実施しているので、またご意見などお聞かせいただければ。

3 その他

○上田洋平委員

中間見直しの中で「健康趣向」という文言があるが、「健康志向」と思われるのでお伝えする。

○上田健一郎委員

近江ツーリズムボードで10/21にニュースリリースしたが、メタバースに関する実証実験を実施しているので、一度皆さんもご覧いただければ。

○事務局（成田課長）

本日は熱心なご議論をいただき、ありがとうございます。

議題1については、SDGsとの親和や、SDGsのわかりやすい記載について、伝統文化や生活文化といった視点の記載、メタバースを含めたデジタル技術の活用といった視点についてご意見をいただいたと考えている。こうしたご意見を反映させ、素案を修正したのち、2/1から3/3までパブリックコメントを実施予定。その後、いただいたご意見を反映した修正案をもとに、3月下旬に再度協議会を開催してお諮りいただきたい。

議題2については、補助金ベースでは採択・不採択があり、計画記載通りの事業執行に至らないケースがあるが、既存事業や単費事業、民間の活用やお金のかからない取組などを有機的に推進することで計画の目標を果たしていきたい。計画に基づいて事業を進め、同じく3月の協議会で改めて進捗状況を報告させていただきたい。

委員の皆さまには引き続きご協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。